

# 長畝ふるさと通信



【2022年5月号】

## ■ コロナ禍3回目の田植終了



ほぼ一か月かかって令和4年度の田植が終了しました。植付面積は約90ha、15,000箱の苗を植えました。今年は雨による休日も2日だけで天候には恵まれましたが、そのせいで今後ダムの水不足が心配されています。新採用の2人は慣れない農作業に戸惑いながらも、この一か月で日に焼けて百姓らしい顔つきに変貌しました。「毎日、色んなことがあって楽しいです」と言いながらも疲労の色は隠せないようで…。これからは草刈地獄が待っています(がんばれ～)。



田植えを終えて一段落した育苗ハウスはすっかり空っぽになってしまい、来シーズンまで休養します。秋の台風や春先の暴風さえなければ平穩に過ごすことができるでしょう。ウクライナ戦争は長期化しそうですが、国際社会はただ眺めてみているだけのように感じなりません。どげんかせんといかん！

## ■ 田んぼアート

5月14日、今年で6作目となる田んぼアートの田植をしました。今回のデザインは地元・行谷小学校の生徒たちが考えた図案です(今までで一番わかりやすく良いと思います)。



田んぼ脇の堤防に設置したビュースポットから見てデザインが歪まないよう測量会社が遠近法を使って図柄の淵をビニールテープでなぞり、それぞれの葉色が出る苗を総勢120人がかりで植えていきました。背景



の緑はコシヒカリの苗、それ以外の赤や白、黒などの部分はイネ科の観賞用苗を植えます。新潟の生協の会員や地元ボランティアなど、一度も田植えをした事の無い人たちが泥だらけになって楽しそうに田植えをしている姿を見ると、普段自分たちが機械を使って仕事としての田植が寂しくも見えてきます。子供の頃、家族総出で田植えをした風景が思い起こされ懐かしさを感じました。

隣の無農薬の田んぼでは子供たちが生きもの調査をしました。お腹が黄金色の佐渡固有種



「佐渡カエル」や外来種のアメリカザリガニなど多くの生きものたちが捕獲され、子供たちは大はしゃぎです。こんな可愛い手でいじくり回されたカエルは果たして幸せだったかどうかは分かりませんが、一生懸命体を張って生物多様性をアピールしていました。

田んぼアートは7月が見頃ですので、佐渡へご来島の際には是非ご覧ください。

## ■ 佐渡キッズ生きもの調査隊

トキの放鳥とともに佐渡の子供たちの環境学習の場として10年以上、「佐渡キッズ生きもの調査隊」の活動に携わってきました。今年は田植えの合間にキッズ田んぼの田植に参加しました。

5月22日、50人の子供たちで約10aの田植です。



田植え枠に沿って1列だけ植えて早く進みたい子、枠を全く無視して自由に田植えを謳歌する子、手が汚れるのが嫌で側でじっと田植えをする様子を見ている子、反対にろくに田植えもせず田んぼを縦横無尽に歩き回って泥だらけになる子など子供の多様性は実に愉快ではあるが、この後この田んぼを管理する者にとっては気が気ではない。その間に昨年この田んぼで収穫したコメをぬか釜で炊いて、田植え終了後は全員でおむすび大会。泥のついた手をろくに洗わず、青空の下でほおぼるおむすびは格別だろう。この後に残りのおむすび争奪戦が始まったことは言うまでもない。

必須アイテムの生きもの調査では、サンショウウオやオニヤンマのヤゴなどレアな生きものたちが登場し、これまた子供たちの視線をくぎ付けにしていました。

佐渡の生物多様性は自ら参加しなければ味わうことが出来ないものだと、改めて感じた日々でした。

